

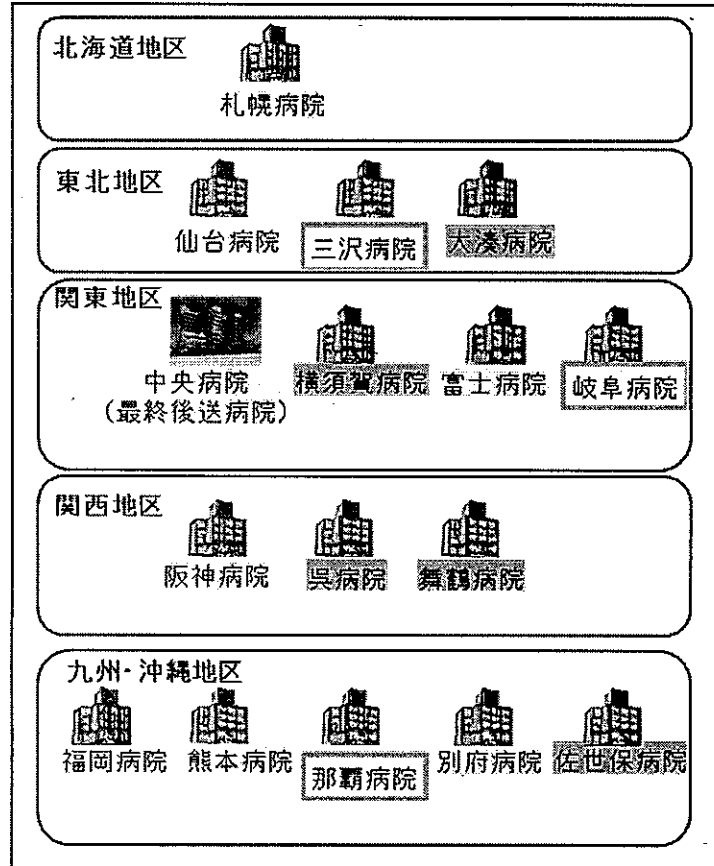
自衛隊入間病院（仮称）の概要

30.9.4
航空幕僚監部
首席衛生官

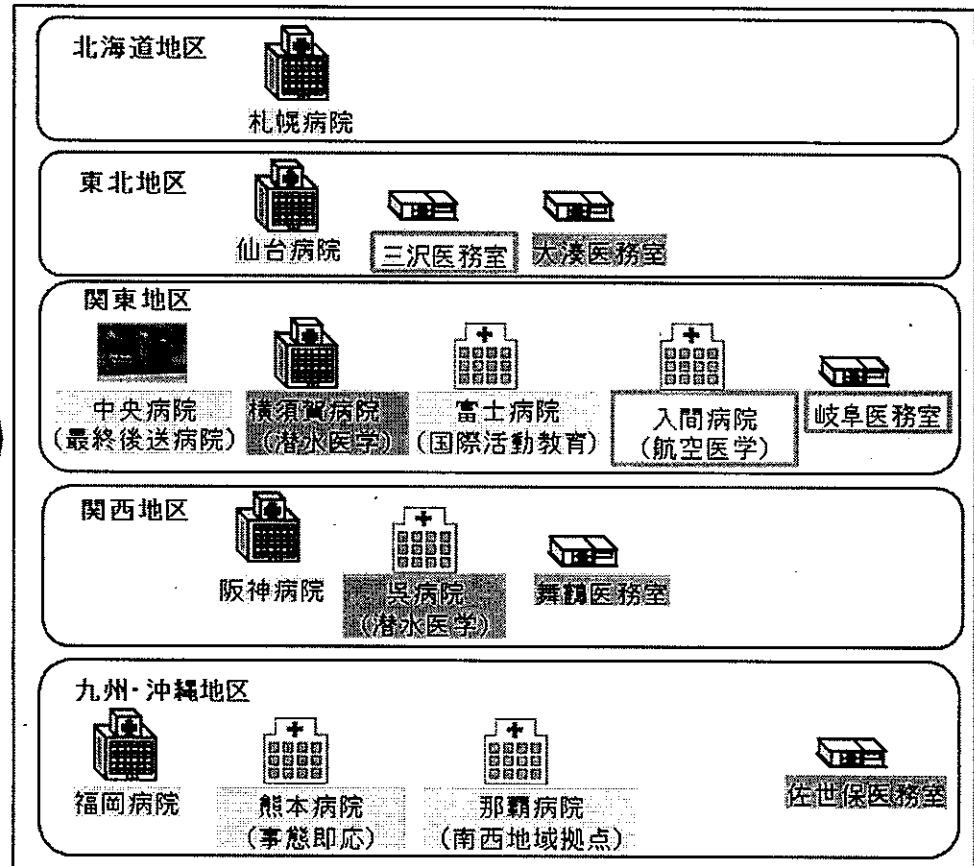
新設の必要性（防衛省としての方向）

- 1 自衛隊病院の拠点化・高機能化を進める。
- 2 航空医学を有した機能病院を整備する。
- 3 関東地区の飛行場近傍に病院を整備する。


現行







将来



集約・機能強化

 基幹病院：担任地区内に発生した傷病者を受け入れ、2次医療を実施。状況により、他の地区から後送された患者を受け入れ、2次診療を実施。

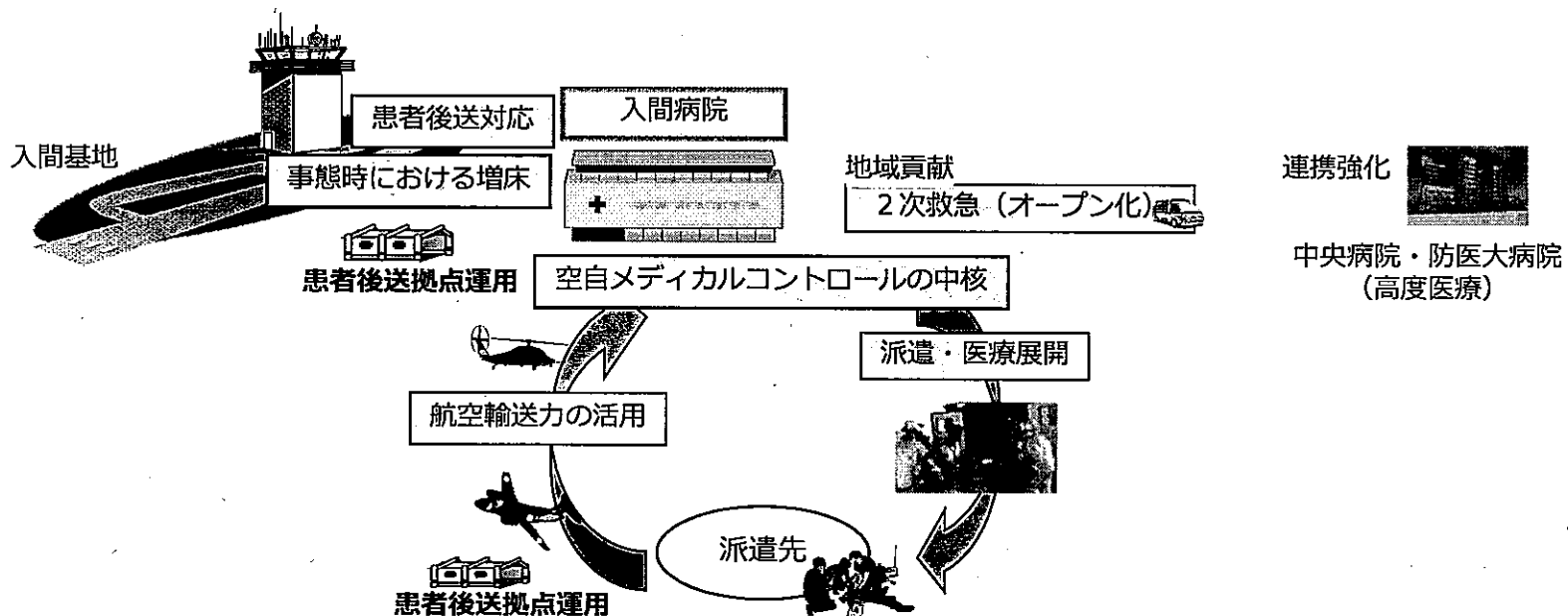
 機能病院：2次医療を実施するとともに、国際活動教育、潜水病等の治療・回復、航空医学の機能及び患者空輸時の医療支援を実施。

 : 陸幕長が管理指揮
 : 海幕長が管理指揮
 : 空幕長が管理指揮

新設の必要性（航空自衛隊としての方向）

- 各種事態において、輸送機等を駆使した患者後送が空自衛生の役割。かかる後送を実現させるためには、患者輸送のノウハウ（病状の安定化・機上医療等）の習熟といったソフト面に加え、輸送機等で後送されてきた患者を再安定化（緊急手術）等させるための病院を飛行場の近傍に整備するなど、ハード面の充実が必要
- また、医療部隊の被災地等への派遣等の初動対応に万全を期すため、かかる病院は、航空輸送力の拠点となり得る飛行場の近傍に整備することが必要
- これらを達成するため、航空幕僚長が指揮監督している分散配置された3病院（三沢病院、岐阜病院及び那覇病院）の限られた人的、物的な資源を一に集中して医療の質を高めることが必要
- 診療科のうち、救急科については保険医療機関化（オープン化）し、地域医療に貢献する。

航空輸送力の最大拠点である入間基地に病院を整備（高度先進医療を担う自衛隊中央病院及び防医大病院との連携の観点からも適当）



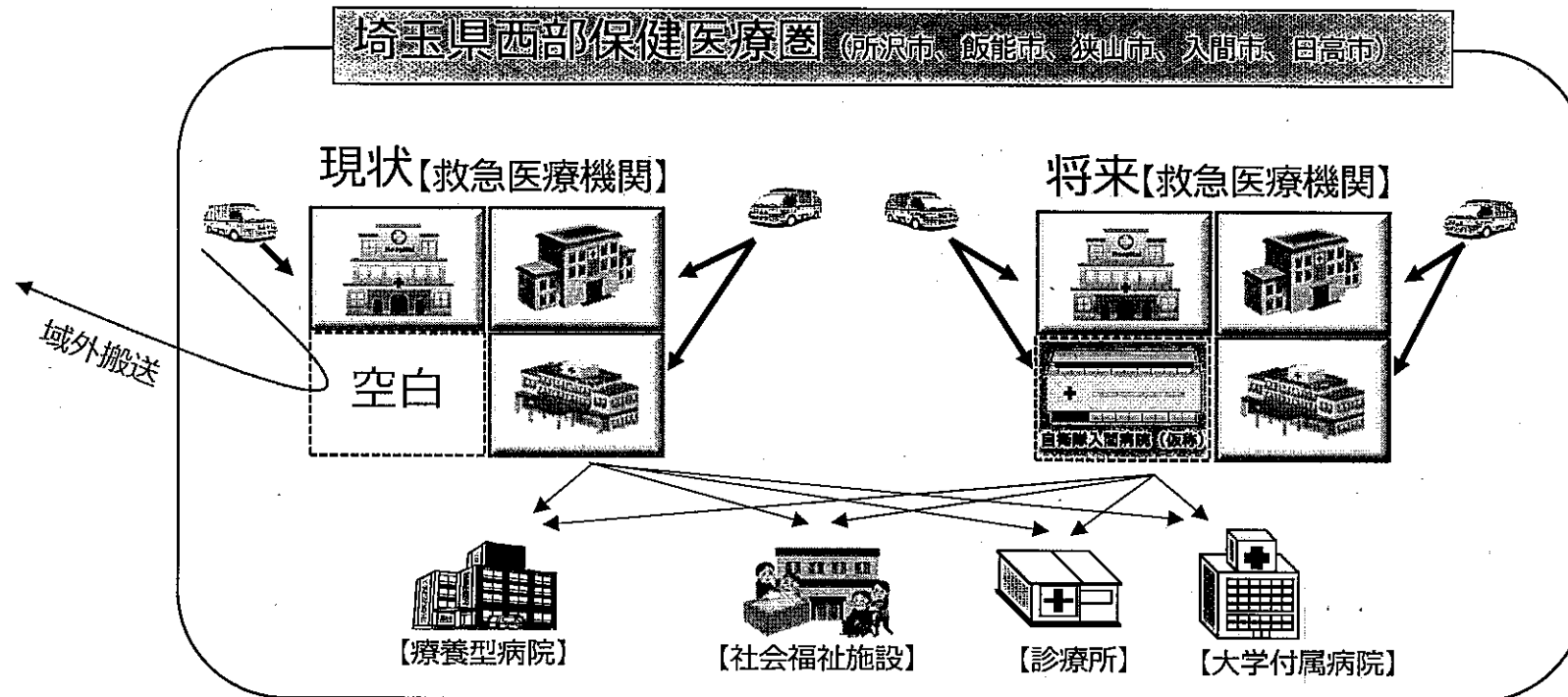
保険医療機関化に向けての取組状況及び開院後の運営について

1 保険医療機関化に向けての取組状況

- (1) 防衛省として自衛隊病院の原則保険医療機関化を決定
- (2) 埼玉県（狭山保健所含む）及び入間市より所沢地区における2次救急（主に小児救急医療）への参画してもらいたい旨の要望あり。
- (3) 職域病院として業務に支障がない範囲内で、地域医師会等と連携、調整のうえ地域医療への貢献を念頭に救急科については保険医療機関化を検討中

2 開院後の運営について（予定）

- (1) 救急車による2次救急の患者を受入
- (2) 受入後患者を安定化し、早期に地域の医療機関に転院



入間病院等に関する概要説明



病院棟各階配置

- 3階** 病棟（高度治療室（HCU）を含め60床（一般50、精神10））
・外来・リハビリ・管理等
- 2階** 外来・手術・検査・内視鏡・化学療法・機械室等
- 1階** 外来・救急・放射線・医事課・薬剤・供給部・厨房・機械室等

航空業務従事者の診断（診察、治療、経過観察、航空業務の可否）

診断に基づく専門的処置

- 内科的処置（内視鏡等）
- 外科的処置（手術等）
- 整形外科的処置（手術、理学療法等）
- 麻酔科的処置（手術、疼痛管理等）
- 精神科的処置（メンタルクリニック等）
- 口腔外科的処置（親不知抜歯、顎関節傷害等）

救急処置（患者空輸時の医療支援、患者後送拠点、災害時等対応）

歯科（隊員の健康管理、歯科医師臨床研修施設としての認定条件）

小児科（隊員家族の診療、救急・災害時等対応）

航空医学診療科

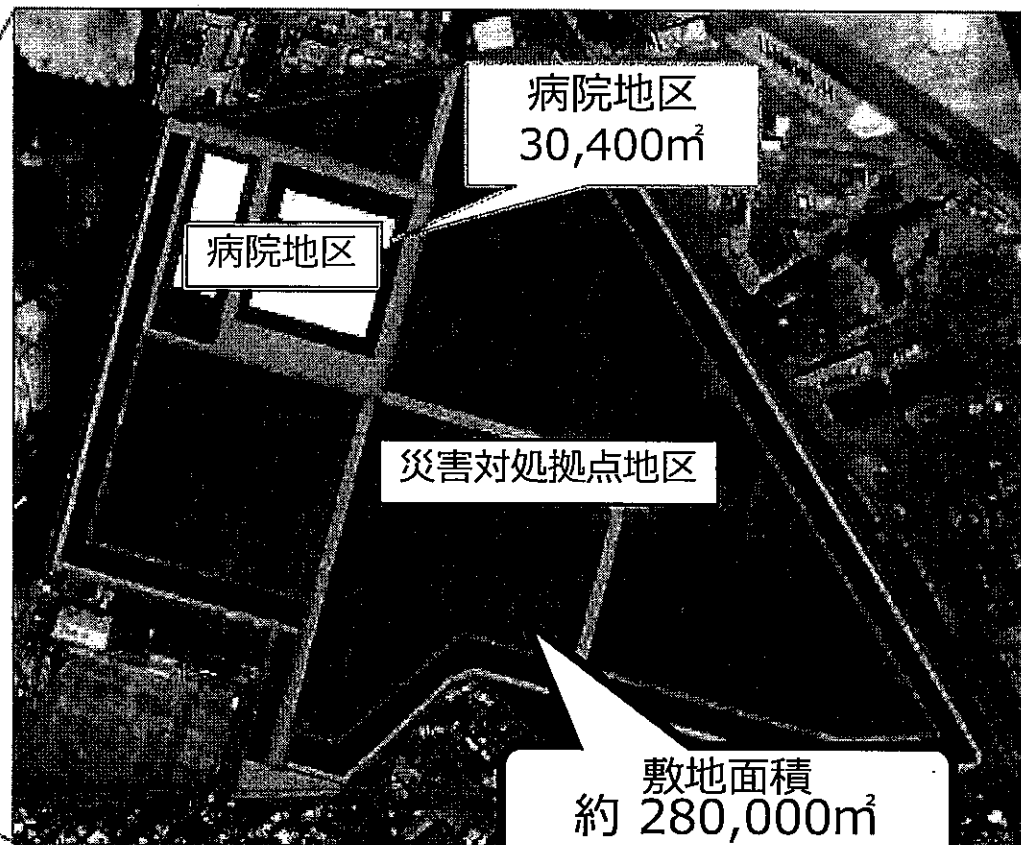
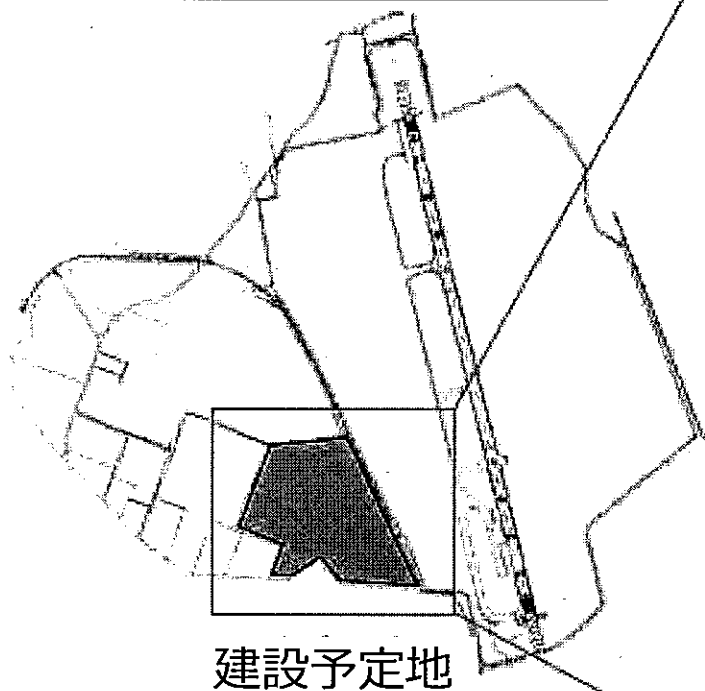
- 内科
- 外科
- 整形外科
- 麻酔科
- 精神科
- 歯科口腔外科
- 救急科
- 歯科
- 小児科

必要な診療科

入間病院（仮称）の建設予定地

- ・米空軍ジョンソン基地跡地（S50年返還）
- ・入間市の承諾を受け、財務省から防衛省へ所管換（H28.6）

航空自衛隊
入間基地全体図



入間病院(仮称)事業整備計画

○	27年度～28年度	基本検討・調査
○	28年度～29年度	実施設計
○	30年度～33年度 (予定)	病院本体工事
○	33年度 (予定)	病院開院

	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
設計	基本検討・調査	実施設計				
行政 手続		開発許可手続	構造評定/計画通知 開設許可申請 (開設の計画に関する 厚生労働大臣協議を含む)			医療法手続
工事		敷地造成工事		病院本体工事 (31月)		開院